

「地図豆」の地図を広げて街歩き

85-1 源兵衛川と柿田川湧水群 （距離約 10km）



柿田川湧水群（公園）で

清水流れる源兵衛川と柿田川湧水群をたずねる。

地図豆辞典：三嶋暦

現在、わたしたちが使っている暦は地球が太陽を一周する周期を1年とし、日数では365日、あるいは4年毎の閏年には366日と決められている。こうした太陽の運行を基にした暦を「太陽暦」（グレゴリオ暦）あるいは「新暦」という。

日本では明治5年12月3日に明治の改暦があり、この日を明治6年（1872）1月1日とした「太陽暦」（グレゴリオ暦）に切り替えられた。それ以前、日本では推古天皇12年（604）、甲子（きのえね）の年の1月1日から暦を使い始めたと記されている。その暦は、中国からもたらされた「農曆」をそのまま使っていた、その「農曆」は、4千年以上も前に中国で作られたもので、「太陰太陽暦」または「旧暦」ともいう。

「太陰太陽暦」は、月の満ち欠け（新月→上弦の月→満月→下弦の月→新月）を基に作られている。月が地球を一周する周期は29.5日であることから、1か月を30日の大の月と29日の小の月とした。となると、1年はほぼ354日、「太陽暦」と比べると1年で11日、3年たつと1か月余季節がずれる。これでは農作業などに不都合が出るため二十四節気を取り入れた。「立春」とか「雨水」などがそれにあたる。

この二十四節気は、太陽の運行を基にしているので、月の周期を基にした「太陰暦」と太陽の周期を基にした「太陽暦」を併せ持っているということで、この暦を「太陰太陽暦」と呼ぶ。

日本では894年に遣唐使が廃止された後から約800年の間、中国から暦の改訂情報が入ってこなかったため、実際と2日の誤差が出てしまった。このため、江戸幕府は渋川春海

に命じて日本独自の暦を作らせた。それが、貞享2年（1685）に出来上がった「貞享暦」である。その後の3回の改暦ののち、1842（天保13年）には「天保の改暦」があった。

「三嶋暦」は太陰太陽暦であって、静岡県三島市の三嶋大社の社家（しゃげ・三嶋大社の神職に従事する人々、またその住まい）である暦師の河合家で代々発行されてきた。現存する最古の「三嶋暦」は、栃木県足利市の足利文庫にある「周易（しゅうえき）古写本」の表紙裏から見つかった永享9年（1437）のもの。このほか、神奈川県横浜市の金沢文庫にある文保元年（1317）のもの、栃木県真岡市の莊厳寺にある庚永4年（1345）のものも「三嶋暦」といわれる。

「三嶋暦」は、仮名文字の暦として日本で一番古いこと、木版刷りの品質が良く、細字の文字模様がたいへん美しいことなどから、旅のみやげやお歳暮などとして人気があったという。

江戸時代初期には、幕府に認められた正式な暦として関東・東海地方で広く使われていたが、江戸後期には大和暦にその座を譲って、伊豆や相模などの一部の地域のみで使用されるだけとなった。三嶋大社の東300mに「三嶋暦師の館」がある。

【道順】

JR 三島駅→菰池公園→白滝公園→水辺の文学の道・桜川→三嶋大社→源兵衛川1→三石神社・時の鐘→雷井戸・三嶋梅花藻の里→源兵衛川2→中郷温水池→柿田川湧水群（→電子基準点「清水町」）→加屋町の境橋→みしまひろこうじ駅・水準点 N058-1→蓮沼川・源兵衛川3→楽寿園→JR 三島駅

【街歩き解説】

・菰池公園：

菰池公園は、三島駅南口の東、300m付近にある湧水公園で、園内の池には色とりどりの鯉が泳いでいる。

・白滝公園：

白滝公園は、三島商工会議所裏の桜川の川辺にある緑豊かな湧水公園である。菰池公園、白滝公園いずれも桜川の源流となっていて、富士からの水が滾々と湧き出ている。

・水辺の文学の道・桜川：

桜川、湧水のある菰池公園から流れ出して、白滝公園の横から三嶋大社方向へと流れる。川沿いには柳が植えられ、太宰治、若山牧水、正岡子規ら三島にゆかりのある作家や歌人の文学碑が並ぶ。湧水の量が多かった昔には、小船を浮かべ情緒を楽しむ人々で賑わったとか。

・三島大社：

創建の時期は不明だが、古くより三島の地に鎮座し、奈良・平安時代の古書にも記録が残る。

伊豆に流された源頼朝は御社を崇敬し、源氏再興を祈願した。神の助けを得てこれが成功するや、社領神宝を寄せて益々崇敬した。神宝の中でも、頼朝の妻、北条政子の奉納と伝えられる「梅蒔絵手箱 及び 内容品 一具」は、当時の最高技術を結集させたものとして知られている。

重厚な総門、本殿、そして美しい舞殿などのほか、その名も意味ありげな「たたり石」や天然記念物のキンモクセイが見どころである。

・源兵衛川：

源兵衛川は、楽寿園小浜池を水源とし、下流の中郷温水池を経て、大場川・狩野川へと続く清流である。

上流のいづみ橋から下流の温水池までは、四季折々の趣を感じることの出来る遊歩道が整備されていて、地元の人たちの絶好の散歩道にもなっている。川に突き出たように復元設置された、昔の洗場「川端」が随所にある。一部には川の中を歩く遊歩道を進めば、カワセミなどの野鳥たちに出会うこともあるだろう。

実は、かつて三島の人々の生活を潤した大切な湧き水も、昭和30年代後半からの高度成長に伴い、進出企業による大量の地下水汲み上げや人口増加による飲料水への供給拡大などが原因で水量が激減し、この源兵衛川も一時期は水の無い状態が続いた。

ところが、平成2年（1990）に国の政策で行なわれた源兵衛川水環境整備事業により、公園の設置や遊歩道の整備とともに、昔のような美しい環境を取り戻すことに成功した。源兵衛川にホタルが帰って来たのは、河川環境整備が完了した2年後の、平成6年のことであった。それ以降、現在に至るまで、5月下旬になると「繁華街をホタルが舞う」珍しい風景に出会うことができる。

・蓮沼川（宮さんの川）：

蓮沼川は、楽寿園の小浜池を源流として、楽寿園南出口から広小路の方へ流れる。楽寿園が小松宮別邸であったことから、『宮さんの川』とも呼ばれている。川の中には水車や噴水、花壇などが置かれ、散策する人々の目を楽しませてくれる。流れの東には源兵衛川が流れる。

・三石神社・時の鐘

三石神社の境内にある鐘は、「時の鐘」と呼ばれ、江戸時代から旅人や三島住民に親しまれてきた。最初の鑄造は、寛永年間（1624～1643）といわれ、その後の改鑄を経て、第2次世界大戦時には、この鐘もご多分に漏れず供出された。

現在の鐘は昭和 25 年（1950）に市民の有志によって造られたもの。

・ **雷井戸・水の苑緑地・三島梅花藻の里**

水の苑緑地は、源兵衛川の間地点に位置し、川の水を活かした池や散歩道などのある公園である。

・ **中郷温水池：**

源兵衛川は、富士の湧き水を利用して水田に水を供給するために引かれた農業用水である。その下流にある中郷温水池は、灌漑用の貯水池である。

富士山を正面に眺める中郷温水池周辺には、休憩舎やレストランもあり、池を一周する遊歩道も整備されている。

・ **柿田川湧水群：**

柿田川の湧水は、他所の湧水と同様に、ここから約 40km 北にある富士山に降った雨水や雪解け水が、溶岩流の間を数ヶ月から数年という長い年月をかけて潜り抜けたものである。

柿田川湧水群（公園）には、大小幾つもの水源があり、清水が湧き出しているさまを身近に見ることができる。絶景そのものである。

豊かな水辺と自然の森に恵まれた柿田川流域には、ミシマバイガモという水生植物が繁茂しているほか、カワセミをはじめとする水辺に暮らす野鳥、ゲンジボタルやアオハダトンボなどの昆虫類、アマゴやアユカケなどの清流魚が生息している。

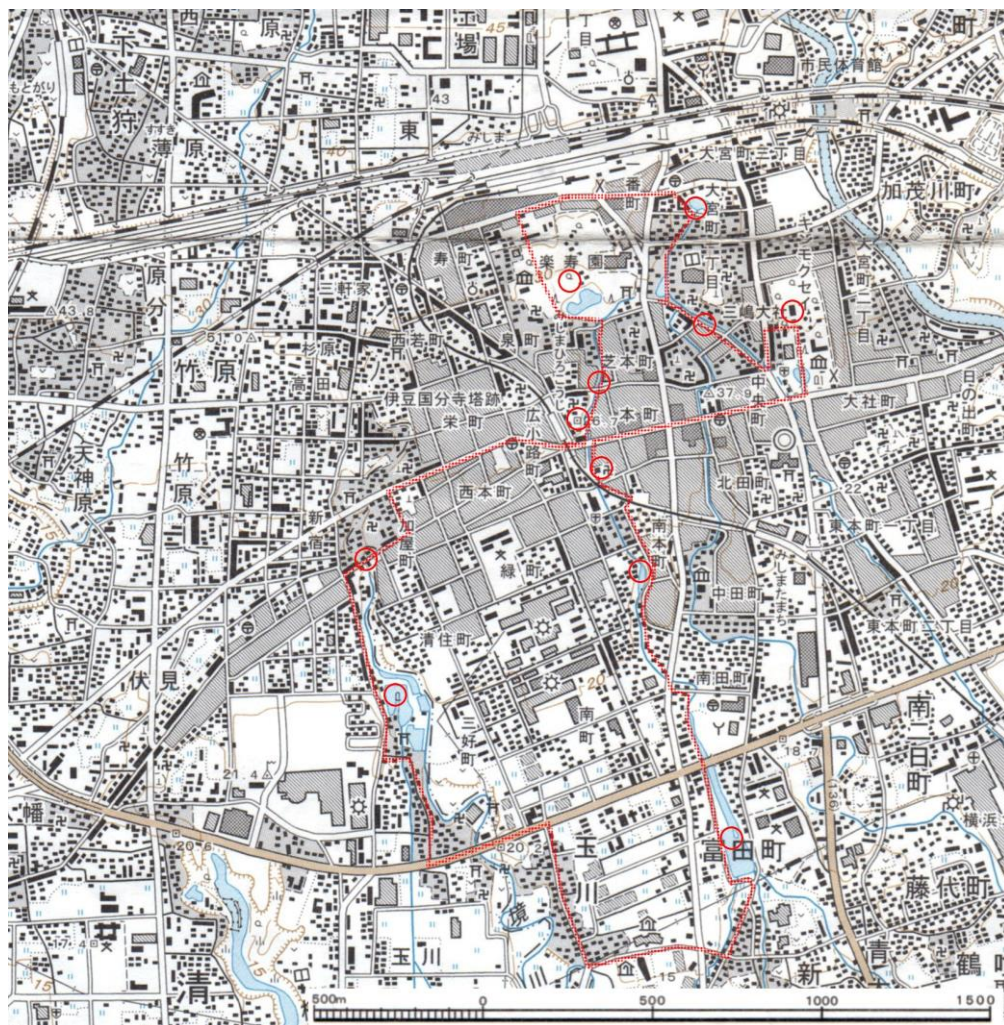
その豊富な湧き水は、地元清水町はもとより、三島市・沼津市など周辺市町村の飲料水に使用されているとのこと。

・ **楽寿園：**

三島駅南口のすぐそばにある、広さ約 71,800 m²の緑豊かな楽寿園は、明治 23 年に小松宮彰仁親王の別宅として造られ、昭和 27 年からは三島市が運営する自然公園となっている。

国の天然記念物にも指定された約 2 万坪にも及ぶ園内には、自然の森や富士の湧き水をたたえるいくつもの美しい池が存在し、人のみならず周辺に生息する野鳥たちの楽園にもなっている。+ * * * +

ルートマップ



****+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu ****+